サイレントインストールの実行

この付録では、次の項について説明します。

- サイレントインストールの実行　(1 ページ)

サイレントインストールの実行

この付録では、Cisco Prime Network Registrar 製品のサイレントインストール、アップグレード、またはアンインストールを実行する方法について説明します。サイレントインストールまたはサイレントアップグレードでは、サイレントインストール応答ファイルの作成時に指定された構成値に基づいて、無人で製品をインストールできます。

注意 サイレントインストールを実行しているシステムの正しい設定が含まれていないサイレント応答ファイルを使用しようとすると、予測不可能な結果が生じる可能性があります。

サイレント応答ファイルを生成または作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 サイレントインストールまたはサイレントアップグレードごとに、次のコマンドを使用して個別の応答ファイルを作成します。

- Windows：

```
setup.exe -r
```

通常どおり、インストールまたはアップグレードのステップを完了します。このコマンドは、指定したパラメータに従って Cisco Prime Network Registrar をインストールまたはアップグレードします。

（注） Cisco Prime Network Registrar がすでにインストールされている場合は、**setup.exe** によって既存のバージョンがアンインストールされ、Cisco Prime Network Registrar がインストールされていない場合はインストールが実行されます。

また、これらのパラメータに基づいて setup.iss サイレント応答ファイルを生成します。Windows のインストールディレクトリ（C:\WINDOWS など）でこのファイルを探します。コマンドを使用するたびに、ファイルは上書きされます。

このファイルの名前を変更するか配置場所を変更したうえで、**ステップ 2** のサイレントプロセスを実行することを推奨します。ファイルを local-nr-https-install などの識別しやすい名前に変更して、一時フォルダに移動してください。

- Linux：

次の表に示すエントリを含むテキストサイレント応答ファイルを作成します。

表 *1 : Linux* のサイレント応答ファイルのエントリ

サイレント応答ファイルのエントリ	説明
BACKUPDIR=	現在の Cisco Prime Network Registrar インストールファイルを保存するパス（ただし、PERFORM_BACKUP=y の場合のみ）
CCM_LOCAL_SERVICES=	有効にするサービス（dhcp、dns、または cdns）
CCM_PORT=	中央構成管理（CCM）ポート。デフォルト値は次のとおりです。 • CNR_CCM_MODE=local の場合は **1234** • CNR_CCM_MODE = regional の場合は **1244**
CCM_REGIONAL_IP_ADDR=	リージョンサーバの IPv4 アドレス
CCM_REGIONAL_IPV6_ADDR=	リージョンサーバの IPv6 アドレス
CCM_REGIONAL_SCP_PORT	リージョンサーバの SCP ポート番号
CNR_ADMIN=	スーパーユーザ名。スーパーユーザ名の設定をスキップするには、値を CNR_ADMIN=unset にする必要があります。
NRADMIN=	非ルートユーザ。非ルートユーザとして Cisco Prime Network Registrar をインストールするには、値は NRADMIN=y である必要があります。
CNR_PASSWORD=	スーパーユーザのパスワード。スーパーユーザのパスワードの設定をスキップするには、値を CNR_PASSWORD=unset にする必要があります。

サイレント応答ファイルのエントリ	説明
CNR_CCM_MODE=	CCM モード。**local**または**regional**に設定します。
CNR_CCM_TYPE=	GSS のインストール用に予約されています。常に **cnr** に設定します。
CNR_EXISTS=	**y**（推奨）に設定すると、インストール時またはアップグレード時に、開いている CLI 接続を強制終了します。それ以外の場合は、基本的に廃止です。
CNR_LICENSE_FILE=	ライセンスファイルへの完全修飾パス。CNR_CCM_MODE=local の場合、CNR_LICENSE_FILE=unset を設定します。
CNR_SECURITY_MODE=	セキュリティモードの設定： • 必須。接続を保護できない場合は失敗します。 • これはオプションです。セキュアでない接続へのフォールバックを許可します。 • ディセーブル。スタートアップ時にセキュリティモジュールをロードしないでください。
DATADIR=	データディレクトリへの完全修飾パス。
JAVADIR=	Java インストールへの完全修飾パス（JRE 1.8）。
KEYSTORE_FILE=	USE_HTTPS=y の場合、キーストアファイルへの完全修飾パス。
KEYSTORE_PASSWORD=	USE_HTTPS=y の場合、キーストアファイルの生成時に使用されるパスワード。
LOGDIR=	ログファイルディレクトリへの完全修飾パス。
PERFORM_BACKUP=	現在のインストールファイル（存在する場合）をバックアップするかどうかを指定します。クリーンインストールでも **y** に設定できます（BACKUPDIR も参照）。
ROOTDIR=	製品ファイルの完全修飾インストールパス。bin、classes、cnrwebui、conf、docs、examples、extensions、lib、misc、schema、tomcat、usrbin サブディレクトリが含まれます。

サイレント応答ファイルのエントリ	説明
START_SERVERS=	完全インストール（プロトコルサーバを使用）の場合は、**y** に設定して、インストールまたはアップグレードを完了させる必要があります。また、インストール/アップグレード後に Cisco Prime Network Registrar 製品が起動されます。クライアント専用インストールの場合は、**n** に設定する必要があります。
TEMPDIR=	一時ディレクトリへの完全修飾パス。
USE_HTTP=	Web UI サーバが HTTP 接続をリッスンするかどうかを設定します。USE_HTTP または USE_HTTPS の一方または両方を **y** に設定する必要があります。
USE_HTTPS=	Web UI サーバが HTTPS 接続をリッスンするかどうかを設定します。USE_HTTP または USE_HTTPS の一方または両方を **y** に設定する必要があります（KEYSTORE_FILE と KEYSTORE_PASSWOR も参照）。
WEBUI_PORT =	Web UI が HTTP トラフィックに使用するポート番号。デフォルト値は次のとおりです。 • CNR_CCM_MODE=local の場合は **8080** • CNR_CCM_MODE = regional の場合は **8090**
WEBUI_SEC_PORT=	Web UI が HTTPS トラフィックに使用するポート番号。デフォルト値は次のとおりです。 • CNR_CCM_MODE=local の場合は **8443** • CNR_CCM_MODE = regional の場合は **8453**
WS_PORT=	Web サービスが HTTP トラフィックに使用するポート番号。デフォルト値は次のとおりです。 • CNR_CCM_MODE=local の場合は **8080** • CNR_CCM_MODE = regional の場合は **8090**
WS_SEC_PORT=	Web サービスが HTTPS トラフィックに使用するポート番号。デフォルト値は次のとおりです。 • CNR_CCM_MODE=local の場合は **8443** • CNR_CCM_MODE = regional の場合は **8453**

サイレント応答ファイルのエントリ	説明
WEB_SERVICES=	Web サービス（DNS ENUM および REST API）を有効にするには y、無効にするには n に設定します。
CNR_BYOD_ENABLE=	BYOD サービスを有効にするには **y**、無効にするには **n** に設定します。

ステップ 2 各インスタンスにサイレントインストールまたはサイレントアップグレードを起動するには、次のコマンドを使用します。

- Windows：

```
setup.exe -s -f1path+response-file
```

（注） 応答ファイルが i386 ディレクトリに格納されていて、setup.exe がそのディレクトリから実行されなければ、**-f1** 引数に応答ファイルの完全修飾パスを指定しないとサイレントインストールは失敗します。

- Linux：

```
install_cnr -r response-file
```

ステップ 3 製品をアンインストール場合：

- Windows：アンインストール応答ファイルを生成し、次を実行します。

```
setup.exe -s -f1uninstall_response_file
```

- Linux：サイレントアンインストールを起動します（このコマンドは、エラー時以外は非インタラクティブです）。

```
uninstall_cnr
```

サイレントインストールの実行